

アムド・チベット語の名詞句構造*

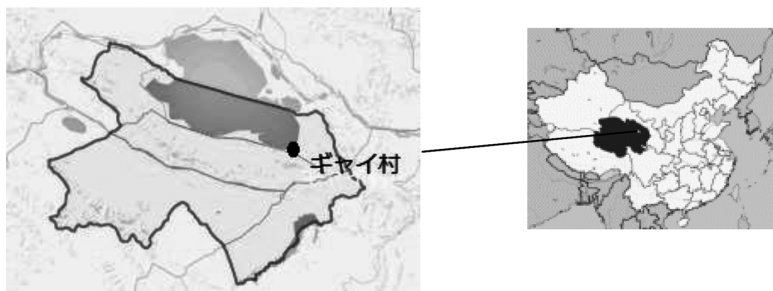
海老原 志穂

はじめに

本稿では、アムド・チベット語の名詞句の構造の概略を述べる。§1 では、まずアムド・チベット語の話されている地域や話者人口、本稿で扱うデータの詳細を述べ、典型的な特徴をまとめる。§2 では品詞分類の概略を示し、名詞の定義について触れる。§3 では本題である、名詞句の内部構造について述べ、§4 でまとめと考察を行う。

1. アムド・チベット語の概要

アムド・チベット語は、中国の青海省（玉樹チベット族自治州を除く）、甘粛省の南部と北部、四川省北部で話されるチベット系の言語である。話者数はデータによって異なり、80 万人から 113 万人程度と推定されている。アムド・チベット語は地域による方言の差異以外に、牧畜民、農民、半農半牧民という生業による方言差も見られる。本稿で扱うデータは、主に、青海省海南チベット族自治州共和県ギャイ村（青海湖南部の牧畜民の村、地図 1 を参照）のコンサルタントの発話をもとにしている。一部、共和県ヨンロン村（海南チベット族自治州の州庁・共和県の県庁所在地であるチャプチャ鎮に近い村）のデータも参考にしている¹。



地図 1 青海省（右）と共和県のギャイ村（左）

* アムド・チベット語のコンサルタントであるギャイ・ジャブ氏（青海師範大学教授）には、海老原（2010）の執筆にご協力いただき、さらに、2013 年 12 月に行った名詞句に関する聞き取り調査におつきあいいただいた。ヨンロン村出身のコンサルタントであるロチ・ギャンツォ氏にも海老原（2008）の執筆にあたって全面的にご協力いただいた。忍耐強く筆者の質問に答えてくださった両氏にはこの場をかりてお礼を述べたい。

¹ 海老原（2008）の記述をもとにしている。

アムド・チベット語の類型的特徴についても触れておく。音韻的には無声調で、子音連続が多いことを特徴とする。語順は他動詞文は AOV，自動詞文は SV を基本語順とする。形容詞による名詞修飾は，NA 語順をとる。格体系は，能格・絶対格型で，能格の分裂現象はみられない。

2. アムド・チベット語の名詞とその他の品詞

アムド・チベット語の自立語は名詞類（名詞，代名詞，形容詞，数詞），の他，動詞，副詞，感嘆詞に分類することができる。名詞類はいずれも格標示をとり，動詞の項やコピュラ動詞の補語になることができる。形容詞の多くは，状態動詞に接辞付加するか，重複するかして形成される（例えば， $t\text{co}^h\eta$ 「小さい」という状態動詞に対応する形容詞は， $t\text{co}^h\eta + t\text{co}^h\eta$ と $t\text{co}^h\eta\text{-}\eta\text{a}$ である）。

3. 名詞句の構造

アムド・チベット語の名詞句構造に関する先行研究には，青海省天峻県で話されるテムチェン方言の文法書である Haller (2004: 61–62) の記述がある。この研究では，名詞句を並列句，同格句，拡張句に分類し，比較的単純な例を提示しており，本稿で扱おうとしている名詞節による修飾の構造や，修飾要素の順番については詳しくはふれていない。

ギャイ方言のデータによると，アムド・チベット語の主名詞は前後から各名詞修飾要素の修飾を受け，主名詞 (HN) と各名詞修飾要素の相対的な位置関係は以下の図 1 のように示すことができる。格助詞は名詞句の一番最後に現れる。AC は名詞修飾節，PRON は代名詞，N は修飾要素となる名詞を表す。ADJ は形容詞，NUM は数詞，DEM は指示詞，INDF は不定マーカ，CM は格標示を表す。指示詞と不定マーカは共起不可能であるため，同じスロットにあると考えられる。ちなみに，これらの要素が全て現れた名詞句は見つかっていない。特に AC はどちらかの位置でしか現れないようである。

AC	PRON	N	HN	ADJ	NUM	AC	DEM INDF	CM
----	------	---	----	-----	-----	----	-------------	----

図 1 アムド・チベット語の名詞句構造

以下の 3.1. から 3.6. では各名詞修飾要素について説明を行い，3.7. では名詞修飾要素の語順と意味の違いについて述べる。

3.1. 名詞、代名詞による修飾

名詞、代名詞が修飾要素となる場合は、いずれも必ず主名詞の前に置かれる。名詞、代名詞ともに属格形をとる。名詞と代名詞が同じ主名詞の修飾要素となる場合には、「代名詞 名詞」の語順となる（例は(5)）。

- (1) $\eta\text{ə}$ $wola$
 1SG.GEN チベット服
 私のチベット服
- (2) $woj\text{ək} = k\text{ə}$ $ts^h\text{ək}mdz\text{ol}$
 チベット文字 =GEN 辞書
 チベット語の辞書
- (3) $\eta\text{ə}$ $w\text{ə}\eta\text{.}\text{ək} = k\text{ə}$ $wola$
 1SG.GEN 妻 =GEN チベット服
 うちの妻のチベット服
- (4) $hta = ta$ $\eta\text{ont}\text{ç}^h\text{at} = z\text{ək} = ne$ $w\text{əl} = e$
 馬 =TOP 以前 =INDF=ABL 出る .PF=CONJ
 [$n\text{d}\text{ø}kkwa = k\text{ə}$ $hka\eta\text{lak} = k\text{ə}$ $k^h\text{ama}$] re .
 牧畜民 =GEN 手足 =GEN 代わり COP
 馬は以前から牧畜民の手足の代わりです
- (5) $k^h\text{ə}rg\text{ə}$ $t^h\text{ojot}^h\text{a} = k\text{ə}$ $hla\eta\text{nk}^h\text{or}$
 3SG.GEN トヨタ =GEN 車
 彼のトヨタの車

3.2. 形容詞による修飾

形容詞は通常は名詞を後ろから修飾する。

- (6) $\phi s\text{ən}$ $t\text{ç}^h\text{oj}\eta\text{a}$
 兄弟 小さい
 年下の兄弟

複数の形容詞が同じ名詞を修飾する場合、それらの形容詞間には特に順番の制限はないようである²。ただし、名詞に近い位置に置かれる形容詞ほど、意味的に

² ヨンロン村の話者の発話では、形容詞が複数現れる場合、形容詞の語順は、(i)のように、その形容詞の意味的なカテゴリーによって決まっている。

(i) 主名詞 (色) (大きさ) (その他の様態)

強調されるのだという。

(7) 生きている小さい鹿

a ça $\text{t\check{c}^h\text{o}ŋ\text{t\check{c}^h\text{o}ŋ}$ $\text{s}^h\text{o}n\text{bo} = \text{z\check{a}k}$
 鹿 小さい 生きている =INDF
 (「小さい」が意味的に強調されている)

b ça $\text{s}^h\text{o}n\text{bo}$ $\text{t\check{c}^h\text{o}ŋ\text{t\check{c}^h\text{o}ŋ} = \text{z\check{a}k}$
 鹿 生きている 小さい =INDF
 (「生きている」が意味的に強調されている)

(8) 白くて小さいきれいな花

a metok karo $\text{t\check{c}^h\text{o}ŋ\text{t\check{c}^h\text{o}ŋ}$ jokkwa
 花 白い 小さい きれい
 (「白い」が意味的に強調されている)

b metok $\text{t\check{c}^h\text{o}ŋ\text{t\check{c}^h\text{o}ŋ}$ karo jokkwa
 花 小さい 白い きれい
 (「小さい」が意味的に強調されている)

c metok jokkwa $\text{t\check{c}^h\text{o}ŋ\text{t\check{c}^h\text{o}ŋ}$ karo
 花 きれい 小さい 白い
 (「きれい」が意味的に強調されている)

3.3. 数詞

数詞は主名詞の後ろに置かれる。数詞は、数詞の語幹だけの形と名詞化接辞をつけた形がある。名詞化接辞をつけた形で主名詞を修飾するとその数が集合全体の数であることを明示する意味をもち、数詞の語幹だけで修飾するとそれを明示しない。

(9) a hta $\text{hs\check{a}m}$
 馬 3
 3頭の馬

b hta $\text{hs\check{a}m-bo}$
 馬 3-NMLZ
 3頭の馬 (3頭が全体の数であることを明示)

- (10) a hta naknak h̄ni ta dzək = ko = no
 馬 黒い 2 今 走る =AUX=NMLZ
 今走っている 2 頭の黒い馬
- b hta naknak h̄ni-ka ta dzək = ko = no
 馬 黒い 2-NMLZ 今 走る =AUX=NMLZ
 今走っている 2 頭の黒い馬 (2 頭が全体の数であることを明示)

助数詞的に用いられる名詞や度量衡の単位が数詞の前の位置に現れることがある (例は (11))。

- (11) [ŋas^he nəməkəŋ goŋmo=o ɲan ɳak^ha hsəm] blaŋ=taŋ.
 早朝 昼 夜 =DAT 薬 種類 3 取る .PF=AUX
 早朝, 昼, 晩の 3 種類の薬をもらいました

3.4. 指示詞, 不定を表すマーカーによる修飾

指示詞 (近称 ndə, 中称 tə, 遠称 ka) と不定を表すマーカー (=zək) はともに名詞の後ろに現れる。形容詞が名詞を修飾している場合は, これらは形容詞の後ろに現れる。指示詞と不定を表すマーカーは共起しない。

- (12) cat^ho tə
 帽子 それ
 その帽子
- (13) koŋjə hmaro ka
 服 赤い あれ
 あの赤い服
- (14) ɕa ts^honbo = zək
 肉 太った =INDF
 脂ののった肉

3.5. 名詞節による修飾

アムド・チベット語には関係節専用のマーカーはない。節で主名詞を修飾するには, 名詞節を主名詞に後置または前置させる。名詞節は名詞化助詞によって形成される。その名詞化助詞は表 1 に示す 4 種類がある。名詞化助詞のうち, =no, =nu のみは動詞の未完了形 (IPF) と完了形 (PF) のいずれにも後続できる。その他の名詞化助詞は未完了形のみにも後続する。各名詞化助詞の絶対格形と属格形

- (18) [hlokkhət ptsoŋ-s^hu ts^hoŋk^haŋ] ə-jo?
 コード 売る -NMLZ.GEN 店 Q- いる / ある
 コードを売っているお店はありますか？

- (19) k^hərgɛɛ hter-ju gormo
 3SG.DAT 与える .IPF-NMLZ.GEN お金
 彼にあげるお金

3.5.1. 名詞化助詞 =no

表 1 に提示した名詞化助詞のうち、名詞修飾に最もよく使われる =no の機能を説明する。その他の名詞化助詞と同様、=no も単独で名詞節をつくる。=no は動詞の未完了形、完了形に後続して「～する / したこと、～する / した者、～する / した物」という意味の名詞節をつくる。例 (20)–(22) のように、主名詞がなくても文中で名詞項として出現可能である。

- (20) [go = no] ə-jo?
 必要である =NMLZ Q- いる / ある
 要る人はいますか？
- (21) [ŋɛ xetɕ^ha ɕən = no] k^hərgɛ rɛ.
 1SG.ERG 本 与える .PF=NMLZ 3SG COP
 私が本をあげる / あげた人は彼だ
- (22) amdo = o joŋ = no t^hok + t^hoŋwo jən = na?
 アムド = DAT 来る =NMLZ 初めて COP=SFP
 アムドに来たのは初めてですか？

=no が動詞の未完了形に後続するか、完了形に後続するかで動作の主体を表すのか、対象を表すのか異なる場合がある。

- (23) sa = no
 食べる .IPF=NMLZ
 食べる人、食べた人

- (24) se = no
 食べる .PF=NMLZ
 食べる物、食べた物

以下では、=no を用いた名詞修飾節を内の関係と外の関係から考察する。

3.5.2. =no 節による内の関係の名詞修飾節

名詞修飾節は、被修飾名詞が、修飾節の中の述語に対して主語、補語などにあたるような格関係をもつか否かという点で2つに分けることができる。被修飾名詞が修飾節の中の述語に対して格関係をもつものを「内の関係」という。アムド・チベット語では、Keenan & Comrie (1977) の名詞句階層「主語>直接目的語>間接目的語>斜格目的語>所有格句>比較の対象」における、「比較の対象」以外では、名詞節による修飾が可能である。

【主語】

- (25) k^hərgɛɛ xɛtɕ^ha hter = nu mɲə
 3SG.DAT 本 与える .IPF=NMLZ.GEN 人
 彼に本をあげる / あげた人

【直接目的語】

- (26) k^hərgɛ htɕar = nu mɲə
 3SG.ERG 叩く =NMLZ.GEN 人
 彼が叩く / 叩いた人

【間接目的語】

- (27) ŋɛ xɛtɕ^ha ɕən = nu mɲə
 1SG.ERG 本 与える .PF=NMLZ.GEN 人
 私が本をあげる / あげた人

【斜格目的語】

- (28) ɕat^ho ptsoŋ-s^hu ts^hoŋk^haŋ
 帽子 売る -NMLZ.GEN 店
 帽子を売るお店

【所有格句】

- (29) hoŋwo tɕ^he = nu mɲə
 体 大きい =NMLZ.GEN 人
 体の大きい人

3.5.3. =no 節による外の関係の名詞修飾節

被修飾名詞と修飾節の中の述語との間に格関係がないものを「外の関係」という。内容補充修飾節による修飾や付随名詞修飾節による修飾の例がみられた。

- (30) [ak^{hə} ʃas^ha = a njo-ju rjəmts^han]
 おじさん ラサ=DAT 行く .IPF=NMLZ.GEN 理由
 ŋe ko = wa.
 1SG.ERG 聞く =AUX
 おじさんがラサに行く理由を私は聞いた

- (31) hlappa tɕe-ʃa njo = nu xetɕ^ha
 脳 もっと - よい 行く .IPF=NMLZ.GEN 本
 頭がよくなる本

- (32) [ɕa ʃek = nu [jima] ɕəm = gə.
 肉 焼く =NMLZ.GEN におい おいしい=AUX
 肉を焼くにおいがおいしそう

- (33) ts^ho mə-nbət = nu sama
 肥満 NEG- 出る .IPF=NMLZ.GEN 食べ物
 太らない食べ物

3.6. 格助詞, 副助詞

格助詞や副助詞は名詞句の一番外側に現れる。

- (34) [m̄anba zan = zək=ka] ɸtan = ne, m̄an blaŋ = ne.
 医者 他=INDF=DAT 見せる .PF=CONJ 薬 取る .PF=AUX
 他の医者に見せて薬をもらいました

3.7. 修飾要素の順番と意味の違い

主名詞の前における修飾要素は、名詞節, 代名詞, 名詞がある。この3つの要素の語順は、「名詞節 代名詞 名詞」のみが許容される。

- (35) ŋe k^hahtsaŋ hkor = nu k^hərgə
 1SG.ERG 昨日 運転する =NMLZ.GEN 3SG.GEN
 t^hojoth^ha = kə hlaŋk^hor
 トヨタ=GEN 車
 私が昨日運転した彼のトヨタの車

- (36) tɕoktse t^hok=na jo=nu k^hərgə
 机 上=LOC ある=NMLZ.GEN 3SG.GEN
 ŋanŋak=kə xetɕ^ha
 詩=GEN 本

机の上にある彼の詩の本（「詩の」が意味的に強調されている）

ちなみに、これらの例の中の名詞節を主名詞に後置させることも可能であるが、その場合は意味が異なるという。

- (37) k^hərgə ŋanŋak=kə xetɕ^ha
 3SG.GEN 詩=GEN 本
 tɕoktse t^hok=na jo=no
 机 上=LOC ある NMLZ.GEN

机の上にある彼の詩の本（「机の上にある」が意味的に強調されている）

4. まとめと考察

本稿では、アムド・チベット語における名詞句の基本的な構造が図2のようになることを示した。このうち、名詞修飾節（AC）は、主名詞の前に置かれる場合と後ろに置かれる場合があるが、置かれる場所により、意味が異なることも示した。

AC.GEN/ABS	PRON.GEN	N.GEN	HN	ADJ	NUM	AC	DEM INDF	CM
------------	----------	-------	----	-----	-----	----	-------------	----

図2 アムド・チベット語の名詞句構造（図1に追記した）

ただし、ヨンロン村の話者の発話では、一般的ではないようだが、「指示詞（DEM）主名詞（HN）」、「形容詞（ADJ）主名詞（HN）」の語順もみられた。

主要部内在型（白井 1999）の名詞句については本文では触れてこなかったが、これまでの調査ではアムド・チベット語にはみつかっていない。

略号

–	Affix boundary	DEM	Demonstrative
=	Clitic boundary	ERG	Ergative
+	Compound boundary	GEN	Genitive
1	First person	INDF	Indefinite marker
2	Second person	IPF	Imperfective
3	Third person	LOC	Locative
ABL	Ablative	NEG	Negative
ABS	Absolutive	NMLZ	Nominalizer
AC	Adnominal clause	PF	Perfective
ADJ	Adjective	PL	Plural
AUX	Auxiliary verb	Q	Question
Ch	Chinese	SFP	Sentence-final particle
CONJ	Conjunction	SG	Singular
COP	Copula	TOP	Topicalizer
DAT	Dative		

参考文献

- 海老原志穂. 2008. 「青海省共和県のチベット語アムド方言」東京大学大学院人文社会系研究科, 博士論文.
- 海老原志穂. 2010. 『アムド・チベット語の発音と会話』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Haller, Felix. 2004. *Dialekt und Erzählungen von Themchen: Sprachwissenschaftliche Beschreibung eines Nomadendialektes aus Nord-Amdo*. Bonn, VGH Wissenschaftsverlag.
- Keenan, Edward L. & Bernard Comrie. 1977. Noun Phrase Accessibility and Universal Grammar. *Linguistic Inquiry* 8. pp. 63–99.
- 白井聡子. 1999. 「現代チベット語の名詞修飾構造」『言語研究』Vol. 116. pp. 59–95.